



那珂川市の文化財 1

国史跡

# 安徳台遺跡

2019

那珂川市教育委員会

## はじめに

安徳台遺跡は福岡平野の最奥、那珂川の右岸、標高約60mの台地上に営まれた遺跡です。面積は台地上が約10万㎡、台地裾まで含めると約23万㎡の広大な遺跡です。遺跡からは弥生時代中期の有力者のお墓や住居跡が見つかり、弥生時代中期の社会や文化を知るうえで重要であることから、平成31年2月26日に国の史跡に指定されました。本冊子は安徳台遺跡の価値を知ってもらうことを目的に作成しました。

### 安徳台遺跡【福岡県那珂川市】

弥生時代中期前葉から後期初頭にかけて営まれた大規模な集落跡。土器、石器、鉄器とともに青銅器鑄造関係遺物が出土している。中期後葉の甕棺墓からは鉄製武器やガラス製品、ゴホウラ製貝輪が副葬されていた。弥生時代の集落と墓域の変遷や階層分化の様相など北部九州地域の弥生時代社会の様相を知る上で重要。

(弥生時代中期前葉から後期初頭にかけて営まれた大規模な集落跡とその墓域)

(平成30年11月16日 答申文書抜粋)

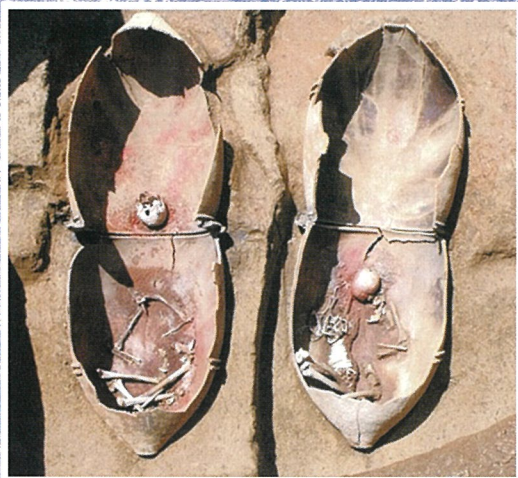
奴国の拠点集落としての安徳台を示す多くの発見！  
5つのテーマで安徳台遺跡の価値を紹介します。

- 有力首長墓とそこから見つかった副葬品と人骨
- 弥生時代中期前葉から後期初頭にかけて、集落の移り変わりが追える住居跡と墓域
- 住居跡から見つかった出土遺物
- 住居跡から見つかった鉄片
- 弥生時代の原風景が残る遺跡

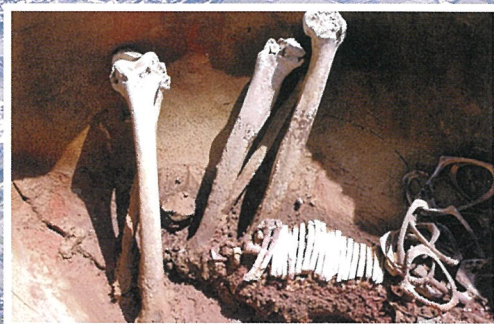
# ●有力首長墓とそこから見つかった副葬品と人骨



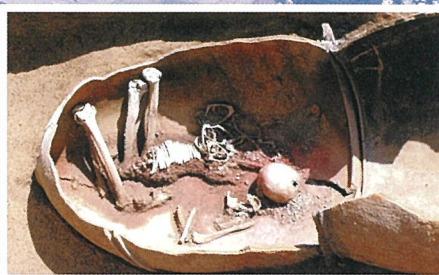
▲検出した時の様子  
(左が5号甕棺、右が2号甕棺)



▲甕棺の一部を取り除いた様子



▲人骨と貝輪の出土の様子



▲人骨と副葬品の出土の様子



▲人骨と管玉くだたまの出土の様子



▲出土した貝輪



▲埋葬の状況を復元したイメージ



▲頭の下から見つかった  
勾玉まがたまと管玉の出土の様子



▶出土した鉄戈  
◀状態の鉄戈  
甕棺の上に置かれた



▶出土した鉄剣  
◀甕棺の横に突き刺さる  
ように出土した鉄剣



▲塞杆状製品さいかんじょうせいひんの出土の様子

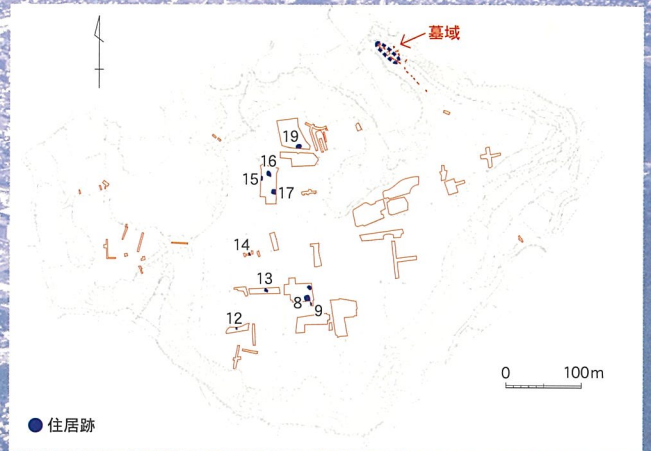


▶出土したガラス製品

塞杆状製品  
勾玉  
管玉

# ●弥生時代中期前葉から後期初頭にかけて 集落の移り変わりが追える住居跡と墓域

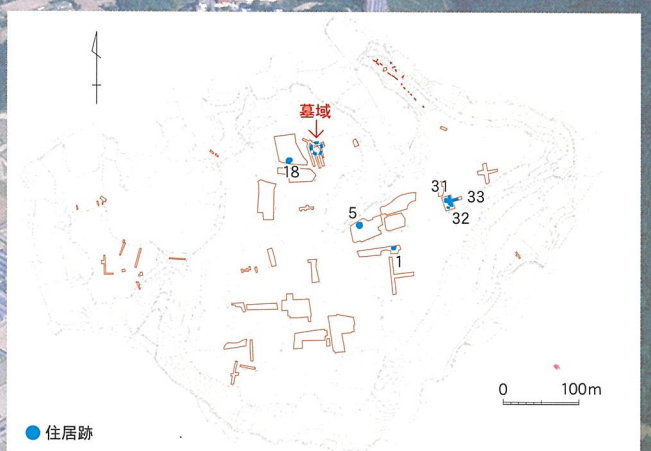
中期前葉



中期中葉



中期後葉



後期初頭



▲発掘調査よりわかった集落の様子イメージ

▲発掘調査で見つかった住居跡の配置図  
(※数字は住居番号)

## 住居跡

## 墓 域

中期前葉



▲ 16号住居 (一辺約7m)



▲ 台地北東の細尾根の先端で見つかりました。

中期中葉



▲ 2号住居 (直径14.6m)

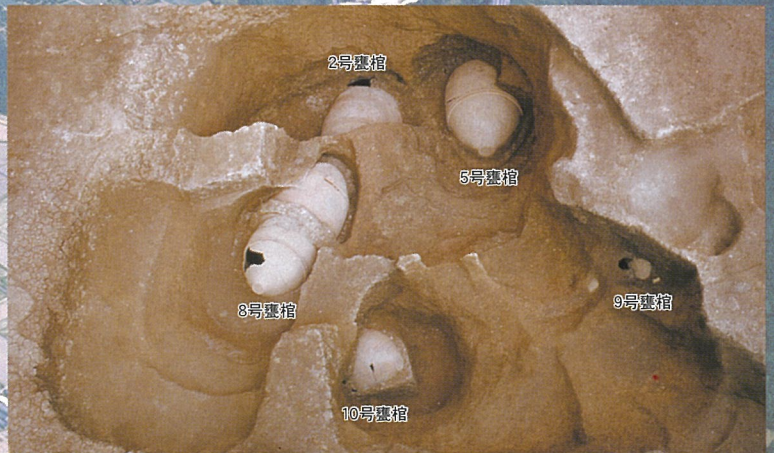


▲ 台地北東の細尾根の中央で見つかりました。

中期後葉



▲ 18号住居 (東西8.7m、南北9m以上)



▲ 細尾根の墓域とは谷を挟んだ西側で見つかりました。

後期初頭



▲ 23号住居 (一辺約3.5m)

安徳台遺跡では、後期初頭の住居跡は  
見つかっていますが、墓域は見つかって  
いません。その理由としては、第1に見つかっ  
ていない、第2に台地の下へ移っているといっ  
たことなどが考えられます。

## ●住居跡から見つかった出土遺物



▲青銅器の鑄型 (滑石製)  
いがた かっせきせい



▲勾玉 (硬玉製)



▲18号住居出土の遺物

(左から漢式鍔、原三国時代の鉢、小玉 (天河石製))  
かんじきそく てんがせきせい



▲塞杆状土製品  
さいかんじょうどせいひん



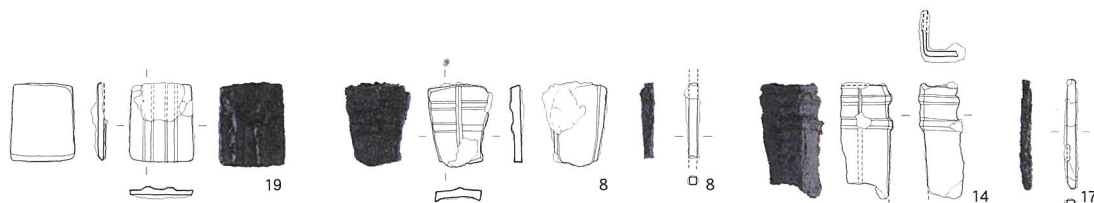
▲不明土製品  
ふめいどせいひん

▲2号住居出土の遺物

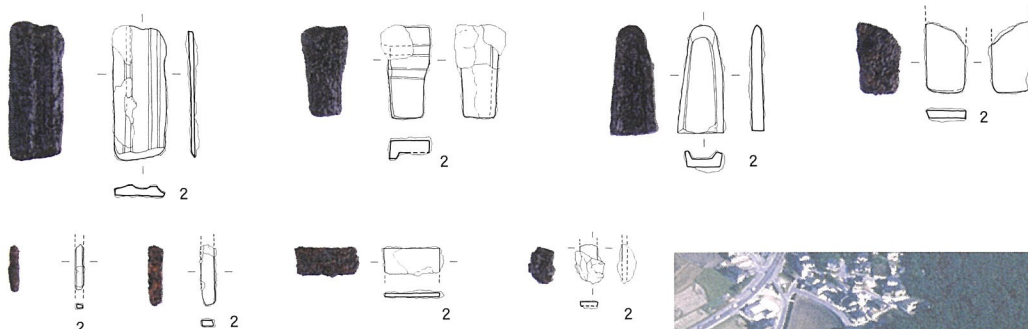
朝鮮半島や中国大陆との関係をうかがわせる遺物が出土しています。さらに、鑄型は細型銅剣の鑄型で、土製品は青銅器生産に関する遺物と考えられます。

## ●住居跡から見つかった鉄片

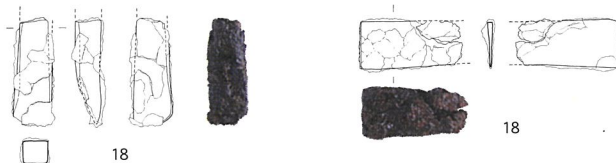
### 中期前葉



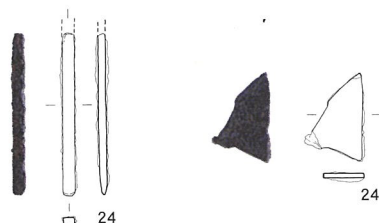
### 中期中葉



### 中期後葉



### 後期前葉



(※数字は出土した住居番号)

本遺跡では弥生時代中期前葉から鉄が出土しています。この鉄は朝鮮半島から輸入された鑄造鉄斧を再加工したものです。よく見ると先が尖らせてあり、鑿として使われたと思われます。住居跡からは砥石も見つかっていることから、これらの鉄を研いだものと思われます。

## ●弥生時代の原風景が残る遺跡

安徳台遺跡の有力者が見ていた風景が、今も台地周辺に残っています。  
当たり前のように繰り返される四季折々の風景も私たちの宝物でしょう。



▲台地下の水田に水が入っています。(6月初旬ごろ)



▲稲が力強く成長し、深緑が一带に広がります。(8月ごろ)



▲稲穂が黄金色に色付いています。(9月中旬ごろ)



▲雪に覆われた安徳台(2月ごろ)

## ●おわりに

本遺跡の広がる安徳台には弥生時代の様子を知る上で  
貴重な資料が眠っています。

この貴重な資料は、それを取り巻く自然環境と一体となって  
守られてきました。私たちはただ遺跡を守るだけではなく、  
安徳台の歴史や自然、その全てを那珂川市の宝として未来に  
伝えていくことが大切だと考えます。那珂川市と国史跡安徳台  
遺跡は平成30年度に時を同じくするように、町から市へ、史跡  
から国史跡への一步を踏み出しました。共に成長し続ける、  
これからの姿を皆さんと考えていきましょう。

## 【国史跡指定までの軌跡】

- 平成9年度 台地上の遺跡の有無を調べるため、全体で25箇所の調査を実施した。台地全体に、縄文時代から中世までの遺構が存在することを確認した。
- 平成10年度 弥生時代中期前葉から中葉にかけての住居跡を40軒以上確認し、市内（当時は町）で初めての弥生時代の大規模集落の発見となった。
- 平成11年度 戦国時代の居館跡を発見した。また、弥生時代中期の住居跡35軒も確認した。
- 平成12年度 弥生時代中期中葉の住居跡25軒を確認した。中世の墓地のほか、古代の大型の建物跡を1棟検出した。
- 平成13年度 直径14mを超える日本でも最大級の中期中葉の円形住居跡を確認し、住居跡からは鋳型・鉄製品などの遺物が出土した。また、古代の建物跡2棟も検出した。
- 平成14年度 弥生時代中期前葉の7mを越える方形住居跡、祭祀跡と思われる土坑、中期後葉の9.5mの円形住居跡のほか、古代の建物1棟を検出した。中期後葉の甕棺墓群を確認した。
- 平成15年度 前年度確認を行った甕棺墓群は前年度から合計10基を確認し、内8基を調査した。その内、2基からゴホウラ製貝輪、ガラス製品（管玉、勾玉、塞杆状製品）等の貴重な副葬品が出土した。
- 平成17年度 図面・遺物整理を行い、報告書を刊行した。
- 平成20年度 (独) 奈良文化財研究所物理探査研究室によるレーダー探査及び探査成果の検証を実施した。調査の結果、一辺6m程の墓墳、中期後葉の直径約15m、後期初頭の直径10m程の円形住居跡を確認した。
- 平成21年度 (独) 九州大学工学部水永研究室により、レーダー探査及び探査検証、台地の西に続く道場山、甕棺墓推定地、銅矛出土推定地の調査を実施した。調査の結果、前回確認した甕棺墓地の谷を挟んだ台地北東の北方へ延びる細尾根中央から先端にかけて、甕棺墓を確認した。時期は中期前葉と中葉で、いずれも墓域の区画が想定され、中期前葉では盛土を確認した。銅矛出土推定地では、銅矛の出土の痕跡は確定できなかったが、盛土と考えられる粘土層を確認した。
- 平成22年度 文化財調査研究指導委員会を開催した。さらに、平成21・22年度に実施した確認調査の図面及び遺物の整理を行い、レーダー探査結果報告を含めた報告書を刊行した。また、文化財調査研究指導委員会で最終的な遺跡の価値の検証を行い、委員会意見として、意見具申を教育長へ提出した。
- 平成26年度 6月定例議会において、那珂川市（当時は町）として「安徳台遺跡の国指定を進めていく」ことが示された。
- 平成30年度 国史跡指定の意見具申を提出する。11月16日に国の文化審議会より国史跡指定の答申が出される。  
平成31年2月26日に国の官報で告示され、国史跡に指定される。

### 那珂川市の文化財 1 国史跡 安徳台遺跡

発行：那珂川市教育委員会  
福岡県那珂川市西隈1丁目1番1号

印刷：有限会社 成光社  
福岡市南区大楠1丁目29番33号